「ねもと地域力」10周年記念誌

（根本校区地域力向上推進会議）

令和３年８月発行

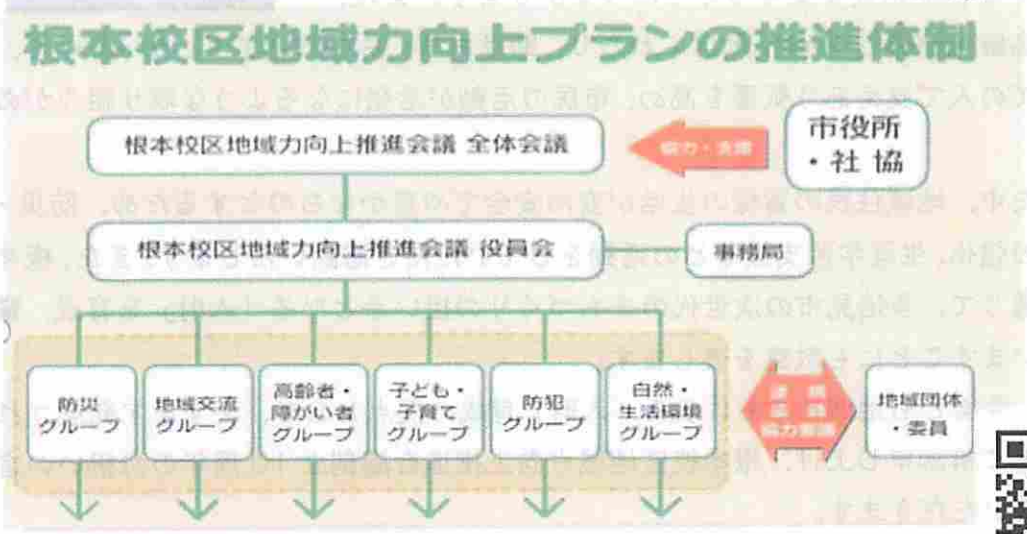
創立の経緯とその後の活動



平成23年度にワークショップの結果、
「１防災」「２地域交流」「３高齢者・障がい者」
「４子ども・子育て」「５防犯」「６自然・生活環境」
の６テーマでグループ別に検討して基礎が決まりました。
そして、関連団体の関係者などの参加を呼び掛け、より地域力に繋がるものとなるようにして行きました。

その結果として、テーマ別に具体的な目標である「はじめの三歩」と題した実施計画や具体的な事業の企画を立て、実施にあたっては、多くの根本校区住民の皆様の参加を得ながら活動を進めました。
現在では、３頁以降のように活動を行っています。





ホームページ　http://nemoto-tiikiryoku.com

浅野会長あいさつ

「根本校区地域力向上推進会議」創立10周年を迎えて



根本校区地域力向上推進会議（「ねもと地域力」）が発足して１０年になりました。

１０年前に根本校区の住民の皆様方に地域のニーズをアンケート調査した結果をもとにニーズを分析し、「防災」・「地域交流」・「高齢者・障がい者」・「子ども・子育て」「防犯」・「自然・生活環境」の６つテーマと後に多治見市よりの受託事業「認知症事業」を加え、各グループが活動方針を立てて実行してきました。

「根本校区地域力向上プラン」みんなで育てる明るいまちづくりを目指し日々活動をしていますが、会員の高齢化進んでいるのも事実で、活動に参加して頂ける方を増やす事が大きな課題になっています。

また１０年経過して実行してきた事が校区の皆様方にどれだけ寄与できたかを、振り返ってみて今後の活動向けて何をすべきか一考する機会にしたいと思います。

今後共「ねもと地域力」の活動に対し地域の皆様方のご支援、ご協力をお願いします。

多治見市長　お祝いのことば



根本校区地域力向上推進会議が創立 10 周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

多治見市のまちづくりの基本方針は「共につくる。まるごと元気！多治見」です。多種多様な主体が協働し、まちづくりを進めていくことが元気なまちづくりにつながります。また、全国的に高齢化が進むなか、「助けられたり、助けたり。おたがいさま」の心がけで、地域の全ての人で支えあう気運を高め、市民の活動が活発になるような取り組みが必要です。

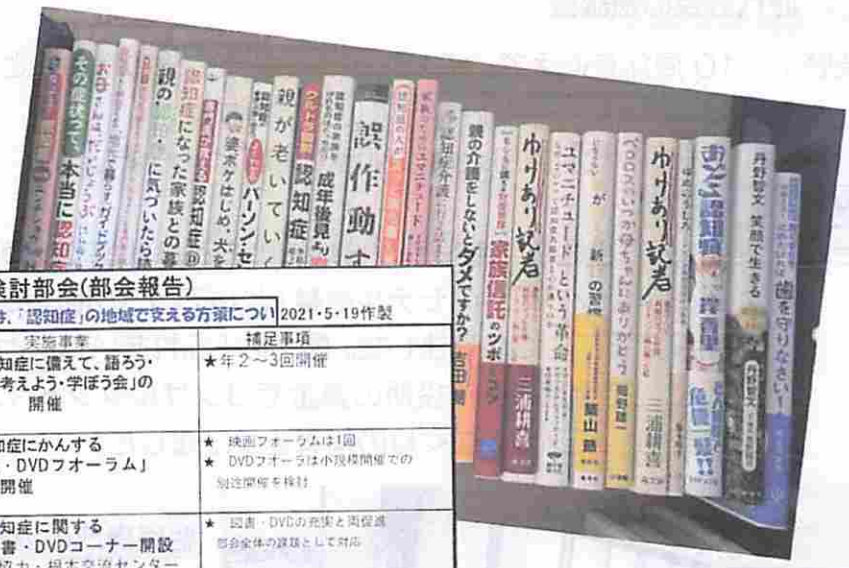
こうした中、地域住民の皆様の生活が安心安全で心豊かなものとするため、防災・防犯活動の強化、生涯学習支援などの活動をしていただき感謝いたします。また、様々な活動を通じて、多治見市の次世代のまちづくりの担い手となる「人財」を育成、輩出されていますことにも敬意を表します。

結びに、今後とも地域とともに歩み「人財」育成の拠点として、ますます発展されますことをご祈念申し上げ、根本校区地域力向上推進会議創立 10 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

多治見市長　古 川 雅 典

認知症サポート検討部会　（総括事業）

「根本交流センター」の協力を得 て、図書コーナーに
「認知症に関する図書・DVD コーナー」設置



認知症サポート検討部会(部会報告)

私たちは、「認知症」の地域で支える方策につい 2021・5・19作製

目　標	実施事業	補足事項
1　認知症啓発活動 地域の方々に「認知症」について正しく理解していただこう!!	①「認知症に備えて、語ろう・考えよう・学ぼう会」の開催	★年２～3回開催
	2 認知症にかんする「映画・DVDフォーラム」の開催	★　映画フォーラムは1回 ★　DVDフォーラは小規模開催での別途開催を検討
	③　認知症に関する図書・DVDコーナー開設 協力・根本交流センター	★　図書・DVDの充実と周促進部会全体の課題として対応
2. 認知症予防教室の開催 行政・公的機関等の社会資源を大いに活用しよう!!	1 認知症予防教室の開催	★　根本校区多世代6単位クラブと調整し順次開催 ★ 認知症予防のための運動教室の開催検討（歩こう会など校区民対象として）
	2　関係機関の出前講座の活用	★　県および市立病院の講座 ★　関係団体の活用
3　認知症の方・介護家族への支援体制の確立を目指して!	1 認知症サポータによる地域支援のあり方検討	★　オレンジ連絡協議会(仮称）の設立に向けての検討
	2　地域支援のためのサポーター養成への取り組み	★　包括支援センターの開催する養成講座の活用（共催） ★　①に参加意思のある方を当検討チームに参画要請
	3 認知症サポートサロン(仮称）開設検討	★　当検討課題の実践の場としての開設検討





歴代会長の紹介

久我　第 1 代会長（平成 23～27 年度）
澤近　第 2 代会長（平成 28～29 年度）
吉田　第 3 代会長（平成 30～元年度）
浅野　第 4 代会長（令和 2 年度～現在）



久我　正　澤近祥弘　吉田邦彦　浅野　健

歴代会長の懇談会

浅野：　10 周年を迎えて、これまでの活動と今後の方針などを歴代会長と発起世話人の若尾幸雄さんに語っていただきます。
なお、３代目吉田会長は都合で欠席となりました。

設立のいきさつ

若尾：　設立のいきさつは市役所から地域のことは地域で行う「地域力向上プランづくりのモデル事業」として、この地域で地域力を創設することになりました。最初は「ふれあいねもと」を事務局として発足し、市役所の資金でコンサルタント（ニード）と契約してプランづくりの指導を受けました。



若尾幸雄
（創立発起人）



組織構成の成り立ちと説明

若尾：　そこでコンサルタントのニードの指導でワーキンググループ会議を開きその目標とする内容を討議し、住民へのアンケートの結果を踏まえてこの組織の骨格ができました。そして、６グループに分かれて、その目標を目指して活動が始まりました。設立時は区や町内会との関係も密にスタートしました。

地域力は、阪神淡路大震災をきっかけ

澤近：　地域力とは阪神淡路大震災のボランティアによる救援活動の成果を検証結果から出た言葉です。
私は設立当初から、防災に尽力するため防災士の資格も取りました。
また、災害時の携帯トイレの普及にも尽力しています。
今回、実施するアンケートや 10 周年記念誌によって地域力の PR と活動内容を理解して頂きたいと思います。

初代会長としての意見

久我：　「ねもと地域力」設立に向けての多治見市の基本姿勢はまさに「地域力」は自助・共助であり、設立までの資金は市の負担でしたが、その後は全く補助がありませんでした。22 区・31 区・明和第２町内会に負担金をお願いするこ

とによりまず会を発足したのです。しかし、その後の運営資金を如何にするか、協議の結果、区民の皆さんの善意に期待して寄付（ワンコイン募金）を募集したところ、地域住民の皆様のご協力で、1回に30万円余の浄財が集まりました。それで、なんとか運営ができました。

募金に際しては、町内会の皆様に大変お世話になり感謝しております。

2代目会長としての意見

澤近：　防災グループを主体にして活動してきました。

防災のイメージフラワーである「ど根性ひまわり」の普及に尽力してきました。又、22区では防災委員会も発足したことにより、安心・安全な地域を目指して共に進めて参ります。

今までやってきたこと

久我：　会長としての主たる事業は、資金作りのための「ワンコイン募金」の導入、青パト隊の設立，そして毎年11月に根本交流センターで行われる「ふれあいフエスティバル」での、地域力のアピールが思い出です。当初に決定した6グループに分かれて、グループ長を中心として各種活動をしてきました。

そのほか、高齢者・障がい者グループ長としての活動のほか、市役所から受託事業として「認知症サポート検討部会」を作り、認知症に関する地域支援のあり方を検討するほか、この地域の皆さんに認知症に対する理解を深めて頂く具体策として、映画会、講演会、「認知症についての語ろう会」など行ってきました。



また、コロナ禍の中で、根本交流センターに「認知症に関する図書・DVD　コーナー」の設置し、皆さんのご利用を呼び掛けております。

組織の問題点と運営の問題点

久我：最近考えますのは、「地域力」と区・町内会と市役所との関係を如何にしたらよいのかであります。校区において重責を負っておられるのは区長はじめとする役員並びに町内会長であると思うのです。我々が取り組んでいる「校区」を単位とした活動と「区・町」活動との接点を如何にするべきなど、10年を契機として再構築を図ることもよいのではと考えます。

また、この10年間ほとんど同じメンバーで高齢化しているので、今後、会員の増強と若返りに努力しなければいけないとつくづく思います。

澤近：　近隣市町では地域の防災活動と市役所の協調力が強固であり、その活動も活発であります。ねもと地域力もそのような組織にしたいと思います。

今後の将来展望

浅野：　皆さんの意見を聞くと、問題点が明らかになり、今後のやるべき方向性が見えてきたように思います。

市役所や区・町内会との連携を密にして、会員増強を図って、もっと地域の皆さんに喜んでいただける活動を考えて、活発な行動ができる組織にしたいと思います。

グループ活動の紹介

1、防災グループ

「日本一防災意識の熱い街」

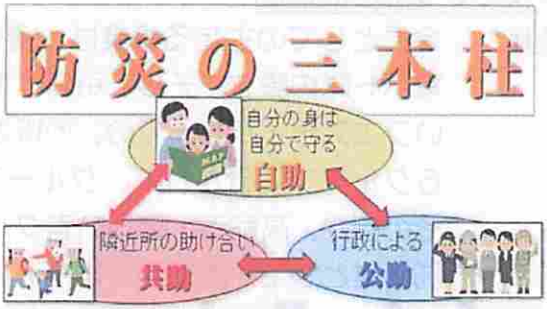
最初の目標

1、組織の確立

区・町内の自主防災組織の見直し活動を行い、出来る体制を作る。

2、現状把握

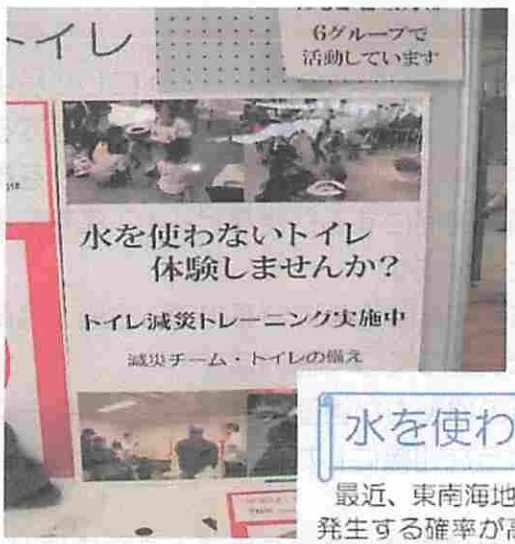
危険箇所の点検を、小学校、中学校、町内会、PTA、老人クラブ、消防団、交通安全協会の協力を得て、実施する。また、弱者対策のための名簿作成をめざす。



3、訓練の実施

全戸安否確認を年１回設定し、実施する。救命処置講習会を年１～２回開催する。土嚢袋を設置し、雨の被害に対処する。

現在までの活動状況





水を使わないトイレ使用方法の体験会

最近、東南海地震、日本海溝沿いの海域で地震が今後３０年以内に発生する確率が高いとの報道がされています。また　近年は大阪府北部地震、熊本地震、西日本の水害、千葉県、長野県で大雨による災害が発生しています。

ところで災害時に一番厄介なのは「トイレ」であることをご存知でしょうか？

水分を吸わせる物と４５リットルのゴミ袋があれば水を使わないで自宅のトイレを使用でき、使用後は「ごみ」としてだせます。「ねもと地域力」では、根本校区全てのご家庭に「トイレ使用方法」をご体験頂き、有事の際でも清潔な街であることを目指しています。

